

## 【原著】

# 小学校教育と幼稚園教育における 「生活」の意味づけに関する比較分析

谷川 夏実 (明治学院大学心理学部)

## 要約

本稿では、小学校教育における子どもの生活の捉えに注目し、小学校教育では生活をどのように意味づけているのか、日々の指導と生活はどのように関連づけられているのかについて、幼稚園教育との比較により検討した。具体的には、小学校学習指導要領解説および幼稚園教育要領解説におけるそれぞれの生活の意味づけについて分析を行った。その結果、小学校学習指導要領解説において生活は指導内容としての意味づけが多くみられたのに対して、幼稚園教育要領解説では生活は指導内容としての意味づけよりも、指導上の配慮事項や教育方法としての意味づけが多くみられた。この違いは、小学校教育と幼稚園教育の目的の違いによるものであり、幼稚園教育では生活に教育方法としての意味づけがあることで、子どもの生活への配慮は教育上不可欠なものとして捉えられていることが示唆される。

キーワード：生活、生活に関する指導内容、生活に関する指導上の配慮事項、教育方法としての生活

## 1. 問題と目的

小中学校の児童生徒を対象として実施される全国学力・学習状況調査に関する分析では、家庭環境の影響力の大きさが指摘されてきた。たとえば荻谷(2001)は、家庭の文化的環境が学力に及ぼす影響について指摘している。ここでの家庭の文化的環境とは、家に本を置く、インターネットなどを通じて情報資源に触れさせる、絵画を置く、楽器を購入する、勉強部屋や勉強机を用意するなどして、子どもの日々の文化的環境を整備することと定義されている。これは文化資本とも言い換えられるものであり、文化資本は「家族から伝達される文化的資源」(小澤 2012, p. 14)を意味する概念である。橘木(2010)は、家庭における父母双方の文化資本の差が、子どもの学習意欲や学

業達成の差につながることを指摘している。

また、全国学力・学習状況調査の結果を活用し、保護者に対する調査結果と学力等との関係について調査研究を行ったお茶の水女子大学の報告書(2018)によれば、調査した小6、中3のいずれの教科、問題においても、世帯収入が高いほど子どもの学力が高い傾向があること、「家庭での蔵書数が多い」、「家庭にある子供向けの本の数が多い」などの家庭の文化資本の量が多いほど、学力が高いことが見出されている。さらにこの調査では、「テレビ・ビデオ・DVD を見たり、聞いたりする時間等のルールを決めている」、「子供と何のために勉強するかについて話している」、「子供に最後までやり抜くことの大切さを伝えている」などの保護者の子どもへの働きかけが、子どもの学力と正の相関があることを指摘している。なお、同大学が2013年度に行った調査研究の報告書

(2014)によれば、小6と中3の横断的調査のデータを比較すると、小学生の方が、子どもの学力が保護者の行動やかかわり方に強く規定されることが明らかにされている。

このように、小学校以降の学校教育における学業達成は、家庭生活のさまざまな要因が強く影響しており、ブルデュ－の文化的再生産論<sup>1)</sup>が、この問題の重要性を理論的にバックアップしている。学業達成は学校生活のみを通して達成されるものではなく、学校生活と家庭生活の両者を通じてなされるものであり、学校生活および家庭生活を含めた子どもの生活全体に対する目配りがきわめて重要であると言えるだろう。また、先の調査結果は、義務教育段階での学業達成は、中学生よりも小学生の方が、より家庭生活のあり方に影響を受けることを示唆している。しかし、こうした相関関係が先行研究において示されてきたにもかかわらず、小学校教育において子どもの生活をどのように捉えて教育がなされているのかという問題は看過されてきた<sup>2)</sup>。

そこで本研究では、小学校教育における子どもの生活の捉えに注目し、小学校教育では生活をどのように意味づけているのか、日々の指導と生活はどのように関連づけられているのかについて検討する。なお、小学校教育における生活の意味づけを、より鮮明に浮かび上がらせるために幼稚園教育における生活の意味づけのされ方と比較する。こうした手続きをとる理由として、幼稚園教育では2008年の幼稚園教育要領改訂において、幼稚園での生活と家庭生活との連続性に配慮することが教育内容の主な改善事項に示されており、小学校教育における学校生活と家庭生活のそれぞれの捉えと両者の生活の関係を理解する上での比較対象となるからである。たとえば、小学校教育と幼稚園教育との生活の意味づけの相違点は、各学校段階の教育のあり方を特徴づけるものであるとともに、幼児教育と小学校教育の連携・接続を図る上での検討課題ともなり得るだろう。

## 2. 分析枠組と課題

学校教育において生活をどのように意味づけているのかを明らかにする上で参考になるのは、学校教育におけるカテゴリーの運用に着目したヒョルンとサーリョ(2004)である。カテゴリーとは、「私たちが出会う事物を有意味なものとするのに必要不可欠な媒介物、文化的道具としての役割を果たしている」(Hyörne & Säljö 訳書2012, p. 141)ものである。それは、「単なる事物や関係性の名前を表すだけのものではなく、私たちに、それぞれの文脈のもとで何をどのように弁別し、行動すべきなのかを教えてくれる」(同上, p. 141)。学校では、「年齢・能力・ハンディキャップ・教科といった、多岐にわたる側面からなるカテゴリー」(同上, p. 144)が用いられており、それらが重要な役割を果たしている。これらのカテゴリーは、学校内での実践について議論する際に用いられるだけではなく、学校教育の目的や責任に関して議論する際にも利用される。

本研究では、小学校教育と幼児教育において用いられるカテゴリーの一つとしての「生活」に、どのような意味が付与されているのかを分析する。なお、この分析において、とくに学校生活と家庭生活のつながりに注目する。さらに小学校教育と幼稚園教育の両者を検討することにより、幼児教育から小学校教育への移行において、生活を含んだ語句の意味づけのされ方がどのように変化するのかという観点からも考察を行う。

具体的には、2017年に改訂された『小学校学習指導要領』および『幼稚園教育要領』の解説の総則に関する箇所において、生活という言葉が使用されている頻度、生活を含んだ語句の意味づけのされ方について検討する<sup>3)</sup>。小学校学習指導要領および幼稚園教育要領は、ともに教育基本法に定める教育の目的や目標の達成のため、学校教育法と学校教育法施行規則に基づいて国が定める教育課程の基準である。なお、各要領解説には、要領本文の記述も含まれているため、解説の分析をすることで要領本文およびその解説の記述の両者を網羅的に分析することとなる。

### 3. 分析の対象と手続き

小学校教育については『小学校学習指導要領解説 総則編』の「第3章 教育課程の編成及び実施」(以下, [小学校]), 幼稚園教育については『幼稚園教育要領解説』の「第1章 総説」(以下, [幼稚園])を分析の対象とした。これらの箇所を選択したのは, 両者がそれぞれの学校段階における教育の基本と教育課程の基本事項を記載した章であり, 概ね同じ事項をカバーしているからである。表1は, [小学校]と[幼稚園]の両者の節のタイトルを対照させたものである。これらのタイトルを見ると[小学校]と[幼稚園]において, ともに教育の基本, 教育課程の役割と編成, 評価, 学校運営・幼稚園運営上の留意事項について記述されていることが分かる(表中の下線部参照)。

また, [小学校]第3節は教育課程の実施について記しているが, [幼稚園]第3節においても, 以下の記述があり, 教育課程の実施に言及していることが確認できる。

…各幼稚園においては, 6に示す全体的な計画にも留意しながら, 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育課程を編成すること, 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと, 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保する…(『幼稚園教育要領解説』第1章第3節 1 教育課程の役割)

[小学校]の「第2節 教育課程の編成」には, 指導計画の作成等に当たっての配慮事項について記載されている。これに対し, [幼稚園]ではその内容が, 「第4節 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価」で記されている。さらに, [小学校]第3節で示されている「育成を目指す資質・能力」に相当する内容は, [幼稚園]第2節の「幼稚園教育において育みたい資質・能力」という表記で記載されている。[小学校]第4節で記されている「特別な配慮を必要とする児童への指導」は, [幼稚園]では「第5節 特別な配慮を必要とする幼児への指導」において記述されている。

なお, [小学校]と[幼稚園]には, それぞれの学校段階に特徴的な内容([幼稚園]における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」, 「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動」, [小学校]における「道徳教育推進上の配慮事項」)も含まれているが, それらは各学校段階の現行の教育課程の基本要素であり, 分析対象に含めることとする。

分析の手続きとしては, はじめに, 各要領解説の分析箇所における「生活」という言葉の出現回数について, 樋口(2014)によって開発されたテキスト型データを計量的に分析することを可能とするフリーソフトウェア「KH Coder」を用いて算出した。

次に, 「生活」を含む記述を文章単位ですべて抜き出し, 各記述における「生活」を含む語句(フレーズ)を抽出し, すべての語句に対して通

表1 『小学校学習指導要領解説』および『幼稚園教育要領解説』の分析箇所

『小学校学習指導要領解説 総則編』 第3章 教育課程の編成及び実施	『幼稚園教育要領解説』 第1章 総説
第1節 <u>小学校教育の基本と教育課程の役割</u>	第1節 幼稚園教育の基本
第2節 <u>教育課程の編成</u>	第2節 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
第3節 <u>教育課程の実施と学習評価</u>	第3節 教育課程の役割と編成等
第4節 <u>児童の発達への支援</u>	第4節 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価
第5節 <u>学校運営上の留意事項</u>	第5節 特別な配慮を必要とする幼児への指導
第6節 <u>道徳教育推進上の配慮事項</u>	第6節 幼稚園運営上の留意事項
	第7節 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動など

し番号を振った。その上で、「生活」を含む語句が表す意味内容を検討し、それを適切に表現する言葉を「テーマ」として生成した。すべての語句に対するテーマの検討の終了後、テーマごとに語句をまとめ、各テーマに該当する語句の合計数および、その割合を算出した。なお、生成されたテーマの妥当性を確保するために、教育学を専門とする大学教員3名に分析結果を示し、必要に応じて適宜修正した。

#### 4. 小学校教育と幼稚園教育における「生活」の意味づけ

##### 4.1 各要領解説における「生活」の出現回数

[小学校] および [幼稚園] における「生活」という言葉の出現回数は、[小学校] は205回、[幼稚園] は386回であった。また、「生活」以外の言葉も含めて出現回数の多い順に並べたときの「生活」の順位と出現回数は表2、表3の通りであ

表2 『小学校学習指導要領解説 総則編』  
第3章における「生活」の出現回数

順位	抽出語	出現回数
1	教育	923
2	指導	812
3	学校	910
4	児童	712
5	学習	618
6	活動	586
7	教科	388
8	内容	315
9	必要	310
10	道徳	302
11	社会	245
12	能力	242
13	計画	234
14	課程	232
15	地域	208
16	生活	205

表3 『幼稚園教育要領解説』  
第1章における「生活」の出現回数

順位	抽出語	出現回数
1	幼児	1,066
2	教育	496
3	幼稚園	415
4	生活	386

る。頻出語の順位は、[小学校] は16番目であるのに対して、[幼稚園] では「幼児」(1,066回)、「教育」(496回)、「幼稚園」(415回)に続いて4番目に出現回数が多かった。

##### 4.2 「生活」に関するテーマおよび各テーマに該当する語句

次に、[小学校]、[幼稚園] において「生活」を含む記述を文章単位ですべて抜き出し、各文章の中で「生活」を含む語句（フレーズ）が表す意味内容を検討した。その結果、「生活」を含む語句が表す意味内容として、全体で10のテーマが生成された。[小学校]、[幼稚園] それぞれの各テーマに該当する語句と、それぞれの語句の出現回数を示したものが表4である。なお、文中ではテーマ名を【 】内に示す。

生成された10のテーマは、【生活の場面】、【生活の主体】、【生活の形態】、【生活に関する指導内容】、【生活に関する指導上の配慮事項】、【目指される生活のあり様】、【生活に関して教師に求められる役割】、【教科としての生活科】、【教育方法としての生活】、【小学校生活とのつながり】である。[幼稚園] では10のすべてのテーマ、[小学校] ではそのうち8つのテーマが生成された。[幼稚園] でのみ生成された2つのテーマは、【教育方法としての生活】、【小学校生活とのつながり】である。

10のテーマのうち、【教育方法としての生活】が[幼稚園] のみで生成されたのは、小学校教育、幼稚園教育それぞれの目的と、それ達成するための教育方法の違いを示すものであり、この違いがそれぞれの教育における「生活」の意味づけのさ

表4 生成されたテーマおよび各テーマに該当する「生活」を含む語句（数）

生成されたテーマ	『小学校学習指導要領解説 総則編』第3章における「生活」を含む語句（数）	『幼稚園教育要領解説』第1章における「生活」を含む語句（数）
生活の場面	日常生活(14)、学校生活(13)、学校生活全体(5)、日常の生活(3)、学校での学習や生活(2)、社会生活(2)、身近な生活(2)、異文化における生活(2)、家庭生活(2)、日々の生活(1)、地域での生活(1)、外国の生活(1)、平素と異なる生活環境(1)、職業生活(1)、余暇生活(1)	幼稚園生活(39)、小学校生活(8)、家庭や地域の生活(7)、遊びや生活(6)、1日の幼稚園生活(4)、入園から修了までの幼稚園生活(3)、日常生活(3)、日々の生活(2)、展開される生活(2)、これまでの生活(2)、小学校における学級での集団生活(1)、修了後の生活(1)、家庭での生活(1)、地域での生活(1)、異文化における生活(1)、我が国の社会とは異なる生活(1)、日本の生活(1)、間接情報に囲まれた生活(1)
生活の主体	児童の生活(4)、自らの生活(2)、人々の生活(2)	幼児の生活(15)、子供の生活(2)、幼児期の生活(1)、幼児が展開する生活(1)、自分の生活(1)、人間の生活(1)
生活の形態	集団生活(3)	集団生活(8)、幼児が共に生活(5)、教師が幼児と共に生活(5)、教師や他の幼児との生活(2)
生活に関する指導内容	学習や生活に活用する(9)、学校/学級生活への適応(8)、学習・生活上の困難の改善・克服(7)、生活態度を育む(5)、基本的な生活習慣を身に付ける(4)、日常生活に生かす(3)、学校生活づくりへの参画(3)、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力(3)、健康・安全な生活を送る基礎(3)、健康・安全な生活を実践することのできる資質・能力(3)、生活習慣の育成/形成(3)、生活上のきまりを守る(3)、自分の生活を見直す(3)、健全な食生活(3)、生活をよりよくする(2)、よりよい生活を築く(2)、よりよい生活を形成する態度(2)、有意義な生活を築く(2)、生活習慣の大切さを知る(2)、生活態度を身に付ける(2)、生活上のきまりを身に付ける(2)、集団生活を築く(2)、集団生活の充実(2)、社会における具体的な生活に生かす(2)、知識と生活との結び付き(2)、生活上の課題を解決(2)、将来の生活や社会と関連付ける(2)、生活上の課題を見いだす(2)、家庭生活を大切にす心情(2)、学習や生活のリズム(1)、学習や生活の見通し(1)、学習や生活への意欲(1)、学習し生活する場としての自覚(1)、学習や生活の基盤(1)、学校生活や学習に必要な日本語の能力を高める(1)、よりよい生活に取り組む(1)、存在感や自己実現の喜びの感じられる生活を築く(1)、社会生活を理解する(1)、生活習慣病(1)、日常生活に必要な基礎的な知識や技能(1)、自分の生活を振り返る(1)、生活上の課題に取り組む(1)、生活の中の様々な言葉(1)、生活の営みに係る見方・考え方(1)、学校生活に必要な基礎的な日本語の習得(1)	豊かな生活体験(4)、社会生活との関わり(4)、小学校以降の生活や学習の基盤(3)、幼稚園生活に親しむ(3)、生活の仕方やきまり(3)、友達と十分に関わって展開する生活(2)、共に生活する楽しさ(2)、協働して生活していく態度(2)、健康で安全な生活をつくり出す(2)、よりよい生活を営もうとする(2)、自分たちで生活をつくる(2)、主体的な生活態度の基礎(2)、小学校の生活や学習の基盤(2)、生活の場を広げる(1)、直接的な体験が得られる生活(1)、自己を表出することが中心の生活(1)、自己の力を十分に発揮できる生活(1)、主体性を発揮して営む生活(1)、集団生活を営む(1)、集団の生活にはきまりがある(1)、教師や友達と協力して生活(1)、友達と一緒に心地よく生活(1)、社会生活に対する興味(1)、小学校生活に期待(1)、幼稚園生活を主体的に送る(1)、幼稚園生活とは異なる体験(1)、友達同士で目的をもった幼稚園生活(1)、幼稚園生活でも実現できる(1)、生活の充実感(1)、遊びや生活に見通しをもつ(1)、遊びや生活に必要な情報を取り入れる(1)、生活行動(1)、生活の変化に対応できる(1)、生活上の困難を克服する(1)、生活に必要な習慣や態度(1)、学んだことを日常生活の中で活用する態度(1)、めりはりのある生活を営む(1)
生活に関する指導上の配慮事項	学校生活への適応(1)、生活条件(1)、学習上又は生活上の困難(1)、外国での生活(1)、家庭や地域社会における児童の生活(1)	幼児の生活(7)、幼稚園生活(7)、幼児の生活する姿(5)、生活のリズム(5)、生活の流れ(4)、幼児の発達や生活の実情(4)、幼児の生活経験(4)、家庭や地域での生活経験(3)、生活の仕方(3)、発達の各時期に展開される生活(2)、一緒に生活している大人の影響(2)、幼児の生活全体(2)、生活の自然な流れ(2)、生活に必要な日本語の習得の困難(2)、生活の連続性(2)、異なった生活経験(1)、集団生活の経験(1)、幼稚園生活の流れ(1)、幼稚園生活の楽しさ(1)、幼稚園で展開される生活(1)、家庭や地域における生活(1)、生活上の困難(1)、生活条件(1)、日本の生活習慣(1)

目指される生活のあり様	健康で安全な生活(4)、健全な生活(1)、生涯にわたる幸福で豊かな生活(1)、生涯にわたり楽しく明るい生活(1)、いじめのない学級生活(1)、互いが伸び伸びと生活(1)、有意義で充実した学校生活(1)	幼児期にふさわしい生活(8)、充実した生活(7)、発達の各時期にふさわしい生活(3)、それぞれの時期にふさわしい生活(2)、この時期にふさわしい生活(1)、安全な生活(1)、健康で安全な生活(2)、健康・安全で幸福な生活(1)、より豊かな生活(2)、安定した生活(2)よりよい生活(1)、自立した生活(1)、生き生きとした生活(1)、豊かな小学校生活(1)、望ましい発達を促す生活(1)、幼児が関心をもったことに存分に取り組めるような生活(1)、幼児の実情に応じた幼稚園生活(1)、教師との信頼関係に支えられた生活(1)
生活に関して教師に求められる役割	生活・学習の状況の把握(3)、生活習慣の把握(2)、学校生活における支援(2)、外国での生活経験を生かす(1)	幼児の生活する姿を捉える(6)、幼稚園生活を見通す(5)、幼児の生活を理解する(3)、幼稚園での生活の様子などを家庭に伝える(3)、1日の生活の流れを考える(3)、幼稚園生活を視野に入れる(2)、生活の実態を理解する(2)、幼稚園生活を充実させる(2)、幼児の生活や発達を見通す(1)、幼稚園生活への適応(1)、生活を受容し応じる(1) 入園までの生活経験を把握する(1)、幼児が暮らしていた国の生活を理解する(1)、幼稚園での生活が家庭でも生かされるようにする(1)、幼稚園生活の流れを捉える(1)、幼児の生活を変化と潤いのあるものとする(1)
教科としての生活科	生活科(13)	小学校の生活科(3)
教育方法としての生活	(該当する語句なし)	遊びや生活の中で(14)、幼稚園生活の中で(12)、幼稚園生活を通して(10)、幼稚園生活の全体を通して(6)、集団生活の中で(5)、幼児期にふさわしい生活を通して(4)、日常生活の中で(3)、集団生活を通して(3)、遊びや生活を通して(2)、共に生活する中で(1)、遊びを中心とした生活を通して(1)、充実した生活を通して(1)、環境に関わって展開される生活を通して(1)
小学校生活とのつながり	(該当する語句なし)	小学校の生活や学習(3)

れ方に関連することが示唆される。

幼稚園教育は、学校教育法第22条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長すること」を目的としており、この目的のもとで「学校教育の始まりとして、幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼児期にふさわしい生活を通して、幼稚園教育の目的や目標の達成に努めること」(文部科学省2018, p.78)が求められている。「幼児期にふさわしい生活を通して」という記述に示されているように、「生活」は幼稚園教育の目的や目標を達成するための方法としての意味づけを有している。

これに対して、小学校教育の目的は「心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育の

うち基礎的なものを施すこと」(学校教育法第29条)であり、この目的に基づき「学校教育全体や各教科等の指導を通して育成を目指す資質・能力を明確にすること」、「各学校の教育目標を設定すること」(文部科学省2017, p.11)が求められている。こうした説明において、「生活」の記述は見受けられない。

学校生活と家庭生活のつながりについては、【生活に関する指導上の配慮事項】、【生活に関して教師に求められる役割】において、[小学校]、[幼稚園]での違いがみられた。[小学校]では、【生活に関する指導上の配慮事項】に該当する語句のうち、家庭生活に関する語句は「家庭や地域社会における児童の生活」のみであった。一方、[幼稚園]では「家庭や地域での生活経験」、「家庭や地域における生活」以外にも、「家庭」とい

う言葉は含まないが家庭生活も含めての配慮を読み取ることができる「幼児の生活全体」, 「生活の連続性」, 「異なった生活経験」といった多様な語句によって家庭生活が指導上の配慮事項として位置づけられていた。

さらに【生活に関して教師に求められる役割】では, [小学校] においては「生活・学習の状況の把握」, 「生活習慣の把握」という語句にみられるように, 児童の生活や生活習慣について教師が把握するものとして意味づけられていることを捉えることができる。[幼稚園] では, 幼児の生活や生活する姿を理解するだけでなく, 幼稚園での生活の様子を家庭(保護者)に伝えることも教師の役割として位置づけられている。具体的には以下の記述にみられるように, 「幼稚園での生活の様子なども家庭に伝えていく」, 「園生活や園の方針を説明したりすることなどが必要」, 「幼稚園での生活の様子などを家庭に伝える」など, 教師の役割として家庭に幼稚園での生活を伝える, 説明することが必要であるという文脈において示されている。

No. 121	<u>幼稚園での生活の様子なども家庭に伝えていく</u> など, <u>幼稚園と家庭が互いに幼児の望ましい発達を促すために思っていることを伝え合い, 考え合うことが大切である。</u>
No. 353	保護者は自身が経験した幼稚園のイメージをもっているため, <u>園生活や園の方針を説明したりすることなどが必要</u> である。
No. 366	このためには, 家庭との連携を十分にとって, 一人一人の幼児の生活についての理解を深め, <u>幼稚園での生活の様子などを家庭に伝える</u> などして, <u>幼稚園と家庭が互いに幼児の望ましい発達を促すための生活を実現していく必要がある。</u>

なお, 【生活に関する指導上の配慮事項】において, [幼稚園] では「幼稚園生活」に配慮事項としての意味づけがなされていた。これに対して, [小学校] では「学校生活」について, 【生活に関する指導内容】において最も多くの意味づけがなされていた。たとえば, 以下に示した「学校や学

級の生活によりよく適応」させる, 「よりよい学校生活づくりに参画する態度などに関わる道徳性を養う」, 「自己肯定感をもちながら, 日々の学校生活を送ることができるようにする」など, 教師が指導する内容として「学校生活」が意味づけられている。

No. 99	各学校においては, 計画的・組織的な取組によってガイダンスの機能を充実させることによって, 一人一人の児童に関し, <u>学校や学級の生活によりよく適応させ, …よりよい発達を促すことが重要である。</u>
No. 179	児童会活動においては, …異年齢による <u>よりよい学校生活づくりに参画する態度などに関わる道徳性を養う</u> ことができる。
No. 91	児童一人一人は興味や関心などが異なることを前提に, … <u>自己肯定感をもちながら, 日々の学校生活を送ることができるようにする</u> ことが重要である。

#### 4.3 「生活」に関する各テーマに該当する語句の合計数と割合

[小学校], [幼稚園] においてそれぞれ生成された各テーマに該当する各語句の出現回数の合計数とその割合, およびその語句を含んだ具体例は, 表5, 表6の通りである。各テーマに該当する語句の合計数の割合とは, 「生活」を含む語句全体の総数 [小学校] 205, [幼稚園] 386 を母数としたときの, 各テーマに該当する語句の合計数が占める割合である。また, 各テーマに該当する語句を含む文章全体を示したものが具体例である。

[小学校] は, 「学習や生活に活用する」, 「学校/学級生活への適応」など【生活に関する指導内容】が最も多く, 該当する語句の合計数は107で, 全体の52.2%であった。これに続くのが【生活の場面】の24.9%であり, それ以外は10%を下回った。

[幼稚園] は, 「幼稚園生活」, 「遊びや生活」など【生活の場面】に関するテーマの語句の合計数が84で, 全体の21.7%に相当し, 最も高い割合を占めた。続いて, 【生活に関する指導上の配慮事項】、【教育方法としての生活】がそれぞれ16.3

表5 『小学校学習指導要領解説 総則編』第3章で生成された「生活」に関するテーマおよび語句の合計数、具体例

生成されたテーマ	語句の合計数 (割合%)	具体例
生活の場面	51 (24.9%)	・No.191 一般に、この段階の児童は、 <u>学校生活</u> に慣れ、行動範囲や人間関係が広がり活動的になる。
生活の主体	8 (3.9%)	・No.4 道徳教育は人格形成の根幹に関わるものであり、… <u>児童の生活全体</u> に関わるものであり、学校で行われる全ての教育活動に関わるものである。
生活の形態	3 (1.5%)	・No.106 また、学校教育は、 <u>集団での活動や生活を基本とする</u> ものであり、学級や学校での児童相互の人間関係の在り方は、児童の健全な成長と深く関わっている。
生活に関する指導内容	107 (52.2%)	・No.44 これらの資質・能力の育成を目指すことが各教科等を学ぶ意義につながるものであるが、指導に当たっては、…幅広い <u>学習や生活の場面で活用できる力を育む</u> ことを目指したりしていくことも重要となる。 ・No.180 第1学年及び第2学年においては、挨拶などの <u>基本的な生活習慣を身に付ける</u> こと、善悪を判断し、してはならないことをしないこと、社会生活上のきまりを守ること。
生活に関する指導上の配慮事項	5 (2.4%)	・No.144 さらに、 <u>家庭や地域社会における児童の生活の在り方</u> が学校教育にも大きな影響を与えていることを考慮し、…それぞれがもつ本来の教育機能が総合的に発揮されるようにすることも大切である。
目指される生活のあり様	10 (4.9%)	・No.22 こうした現代的課題を踏まえ、体育・健康に関する指導は、… <u>健康で安全な生活</u> と豊かなスポーツライフの実現を目指すものである。
生活に関して教師に求められる役割	8 (3.9%)	・No.117 個別の指導計画の作成の手順や様式は、それぞれの学校が児童の障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、 <u>生活や学習環境などの実態を的確に把握</u> し、自立活動の指導の効果が最もあがるように考えるべきものである。
教科としての生活科	13 (6.3%)	・No.57 特に、小学校入学当初においては、スタートカリキュラムとして、 <u>生活科を中心とした合科的・関連的な指導</u> や、1コマを45分ではなく短い時間に区切って設定するなど、工夫が重要である旨を規定している。

「生活」を含む語句の総数 205  
(100%)

%, 【生活に関する指導内容】は14.8%であった。  
[小学校]と[幼稚園]の顕著な違いは、[小学校]では【生活に関する指導内容】に該当する語句が最も多く、「生活」を含む語句総数の52.2%を占めたのに対して、[幼稚園]はこのテーマに該当する語句は14.8%にすぎなかった点である。

[小学校]における【生活に関する指導内容】では、「生活態度を育む」、「基本的な生活習慣を身に付ける」、「生活上のきまりを守ることができるよう指導する」などの記述が示すように、「生活」は指導の対象として意味づけられていることを読み取ることができる。また、このテーマに該当す



表6 『幼稚園教育要領解説』第1章で生成された「生活」に関するテーマおよび語句の合計数、具体例

生成されたテーマ	語句の合計数 (割合%)	具体例
生活の場面	84 (21.7%)	・No.38 それゆえ、 <u>幼稚園生活</u> では、幼児が主体的に環境と関わり、十分に活動し、充実感や満足感を味わうことができるようにすることが大切である。
生活の主体	21 (5.4%)	・No.37 <u>幼児の生活</u> は、そのほとんどは興味や関心に基づいた自発的な活動からなっている。
生活の形態	20 (5.2%)	・No.177 また、満3歳児は学年の途中から入園するため、集団での生活の経験が異なる <u>幼児が共に生活</u> することになる。
生活に関する指導内容	57 (14.8%)	・No.83 教師は、幼児一人一人が、自分で活動を選びながら <u>幼稚園生活を主体的に送ることができる</u> ように、…工夫が必要である。 ・No.198 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、 <u>創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培う</u> ようにするものとする。
生活に関する指導上の配慮事項	63 (16.3%)	・No.185 その変化を十分に把握しつつ、幼児の実情に応じた <u>幼稚園生活を送ることができるように配慮</u> することも必要である。 ・No.237 各幼稚園においては、教育課程を実施するために、 <u>幼児の生活に即して具体的に指導計画を作成</u> することが必要である。
目指される生活のあり様	37 (9.6%)	・No.228 指導計画は、幼児の発達に即して一人一人の幼児が <u>幼児期にふさわしい生活</u> を展開し、必要な体験を得られるようにするために、具体的に作成するものとする。
生活に関して教師に求められる役割	35 (9.1%)	・No.366 このためには、家庭との連携を十分にとり、… <u>幼稚園での生活の様子などを家庭に伝える</u> などして、幼稚園と家庭が互いに幼児の望ましい発達を促すための生活を実現していく必要がある。
教科としての生活科	3 (0.8%)	・No.200 小学校においても、 <u>生活科</u> や総合的な学習の時間が設けられており、学校教育全体として総合的な指導の重要性が認識されているといえる。
教育方法としての生活	63 (16.3%)	・No.68 幼児は、 <u>幼稚園生活</u> において、安定感をもって環境に関わり、自己を十分に発揮して <u>遊びや生活を楽しむ</u> 中で、体を動かす気持ちよさを感じたり、生活に必要な習慣や態度を身に付けたりしていく。
小学校生活とのつながり	3 (0.8%)	・No.108 こうした幼児期の経験は、 <u>小学校の生活や学習</u> において、自然の事物や現象について関心を持ち、その理解を確かなものにしていく基盤となる。

「生活」を含む語句の総数

386  
(100%)

る語句数が最も多いという結果は、小学校教育において「生活」が、指導内容として最も多く意味づけられているということを示すものである。

## 5. 総合考察

本稿では、小学校教育における子どもの生活の捉えに注目し、小学校教育では生活をどのように意味づけているのか、日々の指導と生活はどのように関連づけられているのかについて、幼稚園教育との比較により検討した。具体的には、小学校学習指導要領解説および幼稚園教育要領解説におけるそれぞれの生活の意味づけについて分析を行った。

その結果、生活の意味づけの内容について全体で10のテーマが生成された。小学校教育と幼稚園教育それぞれの分析結果を比較してみると、小学校学習指導要領解説において生活は指導内容としての意味づけが多くみられたのに対して、幼稚園教育要領解説では生活は指導内容としての意味づけよりも、指導上の配慮事項や教育方法としての意味づけが多くみられた。とりわけ生活に教育方法としての意味づけがみられたのは、幼稚園教育のみであった。この違いは、小学校教育と幼稚園教育の目的の違いによるものであり、幼稚園教育では、生活に教育方法としての意味づけがあることで、子どもの生活への配慮は教育上不可欠なものとして捉えられていることが示唆される。

また、子どもの生活への配慮という点について、小学校学習指導要領解説には家庭生活への配慮に関する意味づけはほとんどみられなかったが、幼稚園教育要領解説においては家庭生活への配慮の意味づけが、家庭生活という言葉を含む語句だけでなく、多様な語句によってなされていた。さらに、小学校の学校生活が、指導の対象として意味づけられていたのに対して、幼稚園生活は指導内容としての意味づけとともに配慮事項としての意味づけも有していた。

本稿の冒頭で述べたように、小学校では学業達成と家庭生活との相関が強いことが指摘されており、学校生活だけでなく家庭生活も含めて、子

どもの生活全体に配慮して教育がなされることが求められている。しかしながら、小学校の教育課程の基本的な考え方が示された小学校学習指導要領とその解説では、子ども自身の生活の実態やそこで彼らを取り巻いている困難に対する配慮について明確に記されているとは言えない。したがって、子どもの生活をいかに捉え、どのように配慮し、日々の指導を行うかは、個々の教員に委ねられている部分が多い。また、幼稚園教育とのコントラストが鮮明であることは、子どもが小学校に就学した際に問題が生じること、とりわけ生活上の複雑な問題を抱えた家庭で暮らす子どもにとっては幼児教育から小学校教育への移行の際に負担が大きくなることが示唆される。小学校以降の学校教育における学業達成という点においても、幼児教育と小学校教育への円滑な接続を目指す上でも、金澤（2013）が指摘するように「学校こそは、子どもたちの生活の危機に気づくことができる最初の場」であることをふまえ、学校生活を他の生活関係から切り離して考えるのではなく、「生活の中にある学校」という視点を持つことが求められていると言えるだろう。

## 注

- 1) 大前他（2015）によれば、文化的再生産とは、出自家庭からの文化伝達を通じて教育達成を遂げ、それが本人の能力や学歴として社会的に承認されることにより、社会的地位および階級・階層構造の再生産を企てる過程を意味する。
- 2) 荻谷（1995）は、戦後の日本社会では、家庭背景と学業達成との関連が軽視され、誰に対しても平等に機会が開かれているという想定が成立したとして、それを大衆教育社会と名付けた。こうした社会であったために、家庭生活を含めた子どもの生活と学校教育を通じた学業達成との関連を究明しようとする関心は希薄であった。
- 3) 幼児教育と小学校教育の比較という点においては、『保育所保育指針』を検討の対象とすることも考えられるが、幼児教育に関する基本的な考え方は『幼稚園教育要領』と整合性をとっていることから、ここでは割愛する。

引用文献

Hjörne & Säljö, 2004, There Is Something about Julia: Symptoms, Categories, and the Process of Invoking ADHD in the Swedish School: A Case Study, *Journal of Language, Identity, and Society* 3/1 (=2011, 志水宏吉訳「ジュリアには問題がある — スウェーデンの学校における ADHD の症状・カテゴリーとその適用のプロセス」 荻谷剛彦・志水宏吉・小玉重夫監訳『グローバル化・社会変動と教育』東京大学出版会, pp. 141-168.)

金澤ますみ, 2013, 「子どもの貧困と学校・ソーシャルワーク」『貧困研究』Vol. 11, pp. 40-49.

荻谷剛彦, 2001, 『階層化日本と教育危機 — 不平等再生産から意欲格差社会』有信堂高文社。

荻谷剛彦, 1995, 『大衆教育社会のゆくえ — 学歴主義と平等神話の戦後史』中央公論新社。

樋口耕一, 2014, 『社会調査のための計量テキスト分析：内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシ

ヤ出版。

国立大学法人お茶の水女子大学, 2014, 『平成 25 年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究』

国立大学法人お茶の水女子大学, 2018, 『保護者に対する調査の結果と学力等との関係の専門的な分析に関する調査研究』

文部科学省, 2017, 『小学校学習指導要領〈平成 29 年告示〉解説 総則編』フレーベル館。

文部科学省, 2018, 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。

大前敦巳・石黒万里子・知念渉, 2015, 「文化的再生産をめぐる経験的研究の展開」『教育社会学研究』第 97 集, pp. 125-164.

小澤浩明, 2012, 「I-5 文化的再生産論」酒井朗・多賀太・中村高康編『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房, pp. 14-15.

橘木俊詔, 2010, 『日本の教育格差』岩波書店。

# A Comparative Analysis on the meaning of “livelihood” in elementary school and in kindergarten

Natsumi TANIGAWA

(Faculty of Psychology, Meiji Gakuin University)

## Abstract

This study explored the meaning of livelihood in elementary school by comparing with the one in kindergarten based on the previous studies which found close relationship between students' achievements and their way of family living. Analyzing the commentary text for the course of study of elementary school and of kindergarten, we found sharp contrasts. In the text for kindergarten, children's livelihood is regarded as the content matter as well as the method of teaching. Caring for children's lives is regarded as indispensable for early childhood education. On the other hand, in elementary education, teachers try to regulate children's lives. The commentary text for elementary school describes little about care for their lives.

**Key words :** livelihood, children's livelihood as content matter, caring for children's lives, livelihood as teaching method